

次号予告

とびら 福祉元年.....兵庫リハセンター 大喜多 潤

特集=脊髄損傷、II

膀胱障害と尿路管理.....神奈川リハセンター 宮崎 一 興

脊髄損傷患者のリハビリテーション

(退所後の改造指導及び結果の検討).....岡山のぞみ園 古米 幸好

家屋改造と ADL の実際 (車椅子を使った症例).....宮城拓杏園 山本 俊子

脊損の歩行指導.....国立村山療養所 溝呂木 絢子

四肢マヒの ADL.....東北労災病院 浜島 良和

脊髄損傷患者の皮膚管理.....神奈川リハセンター 高浜 晶彦

講座

筋神経の生理学 (11).....九州リハ大 和才 嘉昭

フィンガーペインティング (3).....九大心療内科 内村 静子

研究と報告

Stroboscope による片まひ歩行の分析.....東大 土田 精

英語講座

Brace clinic (2).....都養育院 荻島 秀男

編集後記

特集に脊損をとりあげた。現在のリハビリテーション医学の基礎となっている技術のいくつかは脊損のリハビリテーションのなかから開発され、発展してきている。徒手筋力検査がアメリカでポリオの筋力の回復過程を評価するために開発されてきたように、ADL テストや車椅子を始めいろいろな補装具類がそうである。リハビリテーション医学の技術面は脊損とともに発展してきたところがある。同じ脊損でも胸腰髄の障害者のリハビリテーションはかなりうまくいっているが、頸髄損傷では上肢機能の点でまだ未解決な問題が多く残されている。今回は脊髄のうち頸髄の機能的 OT, pre-voc OT を始め、医学的な面における障害因子や車椅子, Driver training, それに心理・職業的ななどに亘ってとりあげた。そのなかでも Driver training は、今後もっと取り組んでゆかなければならないし、脊損の社会復帰にとって大きな福利をもたらす重要な問題になってくるもの

と思われる。とかく PT・OT は病院、施設のなかでの訓練に埋没しがちであって、障害者の退院(所)後のリハビリテーションにどの程度の責任を果しているのであろうか。セラピストは訓練室での機能訓練をやるだけが PT・OT のすべてでは決してない。障害者が社会へ出てからのリハビリテーションにも PT・OT としての責任と役割を果すべきではなかろうか。病院で使っていた LLB は退院後 40% は使わなくなった。あるいはスプリントディヴァイスにいたっては殆んど使われていないという事実。これらの問題に対することなくして PT・OT としての責任を果たしたことになるであろうか。リハビリテーション医療の技術面の発達に大いに関与してきた脊損にもう一度じっくりと、とり組みなおすことが PT・OT の脊損に対するマンネリから脱却する唯一の途ではなかろうか。

(松村秩)

編集顧問

天児民和
九州労災病院長

五味重春
府中リハビリ学院長

砂原茂一
国立療養所東京病院長

津山直一
東京大学教授・整形外科
(五十音順、以下同じ)

編集委員

上田敏
東大リハビリ部

荻島秀男
都養育院リハビリ部

佐藤馨
神奈川リハセンター

鈴木明子
府中リハビリ学院

谷岡淳
自治医科大学

田村美枝子
リハビリ学院

寺山久美子
都心障センター

野本卓
東医歯大療養室

福屋靖子
東大リハビリ部

松村秩
都養育院リハビリ部

編集同人

明石謙

赤津隆

内村静子

梅田晃昌

大井淑雄

大川嗣雄

大喜多潤

鎌倉矩子

紀伊克昌

富岡詔子

奈良勲

福田修也

藤本欽也

前田守子

松本妙子

三島博信

横山厳

和才嘉昭

(担当 細田・岩元・松橋)